

【経営ニュース】

H19企業倒産2年連続増加 負債総額約5兆7千億円

東京商工リサーチの調べによると、2007年(平成19年)の全国企業倒産(負債総額1,000万円以上)の倒産件数は前年比6.3%増の1万4,091件で2年連続前年比が増加した。負債総額は5兆7,279億4,800万円と報じている。戦後22番目の水準ながら、2005年から増加傾向が続いている。負債総額も7年ぶりに前年を上回った。ただ全体としては、負債1億円未満の倒産件数が63.6%と小規模企業倒産が目立っている。

産業別にみると、10産業のうち9産業が前年比増加で、特に情報通信業(14.0%増)、卸売業(9.2%増)、製造業(8.9%増)、サービス業他(8.5%増)が目立っている。減少は、不動産業(0.4%減)だけだった。

地区別では、北海道(13.3%増)、九州(10.6%増)、関東(10.2%増)、中部(8.1%増)等7地区が増加。減少は中国、東北の2地区。

都道府県別倒産件数では、前年同月を上回ったのが30都道府県、減少が16府県、同数が1県となった。破産県数は過去最多の8,020件。企業倒産に伴う従業員被害者数は12万2,430人に上り、6年ぶりに前年を上回っている。また販売不振の構成比は64.8%で、5年連続で年間倒産の6割を占めている。
